

武蔵国三十三箇所観音霊場巡りと越谷

加藤幸一

三十三箇所(「三十三所」)「さんじゅうさんじよ」とは、観音菩薩像を安置した三十三箇所(寺院)をさす。観音菩薩は願いを求めている人々の能力に応じて三十三の姿に変えて救うと言われ、この三十三応現身の考えに影響されて設置されたのである。代表的な観音霊場に「西国三十三箇所」、「坂東三十三箇所」、「秩父三十四箇所」(もとは三十三箇所であった)があげられる。この観音札所巡りは弘法大師の八十八箇所巡りとともに江戸時代は庶民の間で盛んに行われ、必ずご詠歌を唱えながら巡礼していた。

武蔵国三十三箇所の霊場は、武蔵国の東南部、主に中川流域に集中して現在(の)吉川市、三郷市、葛飾区、八潮市、足立区、川口市、越谷市、松伏町にまたがっている。吉川市吉川の延命寺を一番としてスタートし、同じく吉川市川藤の三十三番の東泉寺で終わる。次に三十三箇所の中の越谷に関する霊場と、そのご詠歌をあげると、次の通りである。

二十七番 越ヶ谷の観音堂

観音横丁にある観音堂(越ヶ谷五―三一六〇)で、天嶽寺の持ち分である。

「気の払い 大悲の弓に 知恵の矢は 離さで悪魔 除く越ヶ谷」

二十八番 西方の五郎兵衛屋敷(観音堂)

越谷市消防署大相模分署前の道路の斜め(北東)反対側(相模町六丁目)にある墓地及び番場集落センターあたりにあって、斉藤五郎兵衛が住んでいた。

「天つ原 大悲摂取の 雲晴れて 光り輝く ここが西方」

二十九番 東方の観音寺

大成町一―二二六二にある寺院である。

「大悲にも 濟世第一 突つきつつ 東方こそ 補陀落の里」

三十番 増森の観音寺(観音堂)

現在の増森一六八〇の観音堂墓地にあった。宝正院の管轄下にある。

観音寺の名残である観音堂は、すぐ近くの宝正院の境内に移転している。

「一切の 衆生濟度の 大悲にて 日々に新たに 増森の寺」

三十一番 増林の林泉寺

増林三八一八にある寺院である。かつては『子安観音』として知られていた。現在、子安観音を祀る観音堂が境内にある。

「行き暮れて 野寺の鐘の 聞こゆるは この下影が 増林寺」

参考文献

- ・「大相模真山大聖寺 第十六世円妙上人 記」(元文三年(一七三八))の
中の『武蔵三十三所観音巡礼縁起』
- ・越谷市郷土研究会第一三三回研究発表会資料「越谷周辺の諸巡礼」(高崎力)
- ・足立区伊興の実相院発行の「観音霊場巡拝のしおり」

武蔵国三十三箇所観音霊場のご詠歌(原文)

第一番 吉川・延命寺

ふたつうくも
しんじつなみの
しんじつなみの
なちのおもて
おなじびびきんぞ

第八番 高富・観電院

とねがわの
ながれにじつく
りうぜんじん
しんじつなみに
のしりふとく

第十五番 猿ヶ又・通照院

ちよつこの
しんじつなみの
しんじつなみの
みぢびまは
あつこのちよつこ

第二十二番 大曾根・蓮台寺

めくしんじつ
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの
ちよつこのちよつこ

第二十九番 東方・観音寺

だいにしんじつ
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの
ふたつこのちよつこ

第二番 平沼・智勝院

このてり
だいにのちがい
しんじつなみの
ただひうぬまに
このはださく

第九番 中曾根・観音寺

のしんじつなみの
だいにのちがい
ひかきまて
このはかぞねに
かかるじんれい

第十六番 飯塚・安福寺

われひての
しんじつなみの
ゆうがその
はなのうてはに
のしんじつなみの

第二十三番 伊興・実相院

うまはなて
またこのちよつこ
わうしんじつな
だいにのちがい
しんじつなみの

第三十番 増森・観音寺

しんじつなみの
だいにのちがい
みびにあつたに
ましものてり

第三番 関・普門院

ただねが
だいにのちがい
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの

第十番 彦糸・実相院

たのしんじつな
しんじつなみの
くもはなて
うづすじつな
てうすじつな

第十七番 大瀬・太郎左衛門

いんじつな
しんじつなみの
ちよつこのちよつこ
あつこのちよつこ
しんじつなみの

第二十四番 蓮沼・普門寺

だいにのちがい
しんじつなみの
ふねもまた
つれてのちよつこ
はすねまの

第三十一番 増林・林泉寺

しんじつなみの
のてりのかねの
まのちよつこ
しんじつなみの
まのちよつこ

第四番 中井・東眼寺

いてるひも
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの

第十一番 彦富・兵左衛門

ちよつこのちよつこ
しんじつなみの
めがみにそ
まのちよつこ
まのちよつこ

第十八番 川崎・仁兵衛屋敷

いんじつな
しんじつなみの
あつこのちよつこ
あつこのちよつこ
あつこのちよつこ

第二十五番 赤井・円通寺

ういんじつな
しんじつなみの
あつこのちよつこ
あつこのちよつこ
あつこのちよつこ

第三十二番 岩平・観音寺

しんじつなみの
あつこのちよつこ
あつこのちよつこ
あつこのちよつこ
あつこのちよつこ

第五番 中島・万福寺

ういんじつな
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの

第十二番 彦成・西福寺

あつこのちよつこ
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの

第十九番 木曾根・普門寺

しんじつなみの
かねてちよつこ
くにならば
たのしんじつな
みかひなくと

第二十六番 赤山・西福寺

しんじつなみの
またはれもせぬ
そのちよつこ
だいにのちがい
うづすじつな

第三十三番 川藤・東泉寺

みずかみわ
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの

第六番 三輪野江・定勝寺

ただにのちがい
だいにのちがい
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの

第十三番 番匠免・迎撰院

ひるとなく
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの

第二十番 鶴ヶ首根・宝幢寺

ちよつこのちよつこ
かわつねが
しんじつなみの
あつこのちよつこ
あつこのちよつこ

第二十七番 越ヶ谷・観音堂

あつこのちよつこ
だいにのちがい
しんじつなみの
しんじつなみの
しんじつなみの

第七番 高久・密厳院

みなひての
ねがいはしんじつ
みんじんじん
ぼろのちよつこ
あつこのちよつこ

第十四番 戸ヶ崎・常楽寺

あつこのちよつこ
だいにのちがい
ちよつこのちよつこ
しんじつなみの
しんじつなみの

第二十一番 八条・清勝院

しんじつなみの
れんじつなみの
だいにのちがい
あつこのちよつこ
あつこのちよつこ

第二十八番 西方・五郎兵衛

あつこのちよつこ
だいにのちがい
くもはなて
みかひなくと
しんじつなみの

武蔵国三十三箇所観音霊場の御詠歌

第一番「延命寺」
補陀落や

第十番「実相院」
頼もしや

第十九番「普門寺」
御堂をば

第二十八番「田舎観音」
天つ原

岸打つ波の
芦川(吉川)も

真如の月の
雲晴れて

かねて誓いの
国ならば

大悲撰取の
雲晴れて

那智の御山と
同じ響きぞ

有為の闇路を
照らす実相

たとい木曾根に
光り無くとも

光り輝く
ここが西方

第二番「智勝院」

この寺の
父母の

第二十番「宝幢寺」
千代かけて

第二十九番「観音寺」
大悲にも

大悲の誓い
いや増して

育て上げにし
恵みにぞ

変わらぬ誓い
今ここに

濟世第一
突つきつつ

ただ平沼に
法の花咲く

孫彦富の
栄え久しき

巡りて鶴が(鶴ヶ)
曾根にこそ着く

東方こそ
補陀落の里

第三番「普門院」

第十二番「西福寺」
巡り来て

第二十一番「観音堂」
一葉の

第三十番「観音寺」
一切の

大悲の船の
出でる間に

この里々の
児玉には

蓮座に座すも
大悲にて

衆生済度の
大悲にて

乗り遅れては
心急ぎ(関)らむ

大悲の光
移る彦成

さても広さよ
八丈(八条)の床

日々に新たに
増森の寺

第四番「東眼寺」
出でる日も

第十三番「迎撰院」
昼となく

第二十二番「蓮台寺」
巡り来て

第三十一番「林泉寺」
行き暮れて

入る日もここに
東岸寺

夜にも響く
番匠免

又この里に
大曾根や

野寺の鐘の
聞こゆるは

中井の水に
光り輝く

夢驚かず
法の槌音

大慈大悲の
誓いなるらん

この下影が
増林寺

第五番「万福寺」
植えて見よ

第十四番「常楽寺」
哀れ只

第二十三番「実相院」
生まれ来て

第三十二番「観音寺」
光明は

菩提の種の
万福寺

誓いには
漏れても救う

又この里に
横沼寺(おんいぬ)※

遍く照らす
誓いにて

穢土と浄土の
ここが中島

戸ヶ崎の寺

大悲に
如來弘誓の

幾世経ぬらん
大悲の御手を

第六番「定勝寺」
ただ頼め

第十五番「遍照院」
一寸の

第二十四番「普門寺」
大悲には

第三十三番「東泉寺」
水上は

大悲の誓い
定勝寺

善きには尺の
猿ヶ又

船もまた
連れて乗り来る

移りにけりな
岩平の寺

身は野に捨てて(三浦)
浮かぶ世も有る

六つの巷を

蓮沼の里

すずぐ川藤

第七番「密厳院」
皆人の

第十六番「安福寺」
我人の

第二十五番「円通寺」
有縁より

※第十五番の
「尺」は、一尺の

願いはここに
密厳院

諸願をここに
夕顔の(夕顔観音)

無縁にまでも
縁通じ

ことと、一寸の
十倍であるとの

菩薩の誓い
有りぬ高久

花のうてなに
法の飯塚

慈悲の赤井に
星も移れり

意味が含まれる。

第八番「観龍院」
利根川の

第十七番「観音堂」
幾億か

第二十六番「西福寺」
東雲の

※第二十三番の
実相院は、横沼寺

流れに続く
竜善院

衆生も去らぬ
誓いにて

又晴れもせぬ
その内に

また「いこう」は
威光の意という。

岸打つ波に
法の音聞く

芦の古里
ここに仰せは(大瀬)

大悲の光
移る赤山

(実相院ご住職より)
※伊興の実相院

第九番「観音寺」
野も山も

第十八番「西福寺」
一艘の

第二十七番「観音堂」
氣の払い

発行の「観音霊場
巡拝のしおり」の

大悲の網に
引かれ来て

船に大悲の
竿さして

大悲の弓に
知恵の矢は

漢字混じりで
表した。

この中曾根に
かかる巡礼

遍く照らす
法の川崎

離さで悪魔
除く越ヶ谷

文責 NPO法人
越谷市郷土研究会

野も山も

一艘の

氣の払い

漢字混じりで

大悲の網に

船に大悲の

大悲の弓に

漢字混じりで

引かれ来て

遍く照らす

離さで悪魔

漢字混じりで

この中曾根に

遍く照らす

離さで悪魔

漢字混じりで

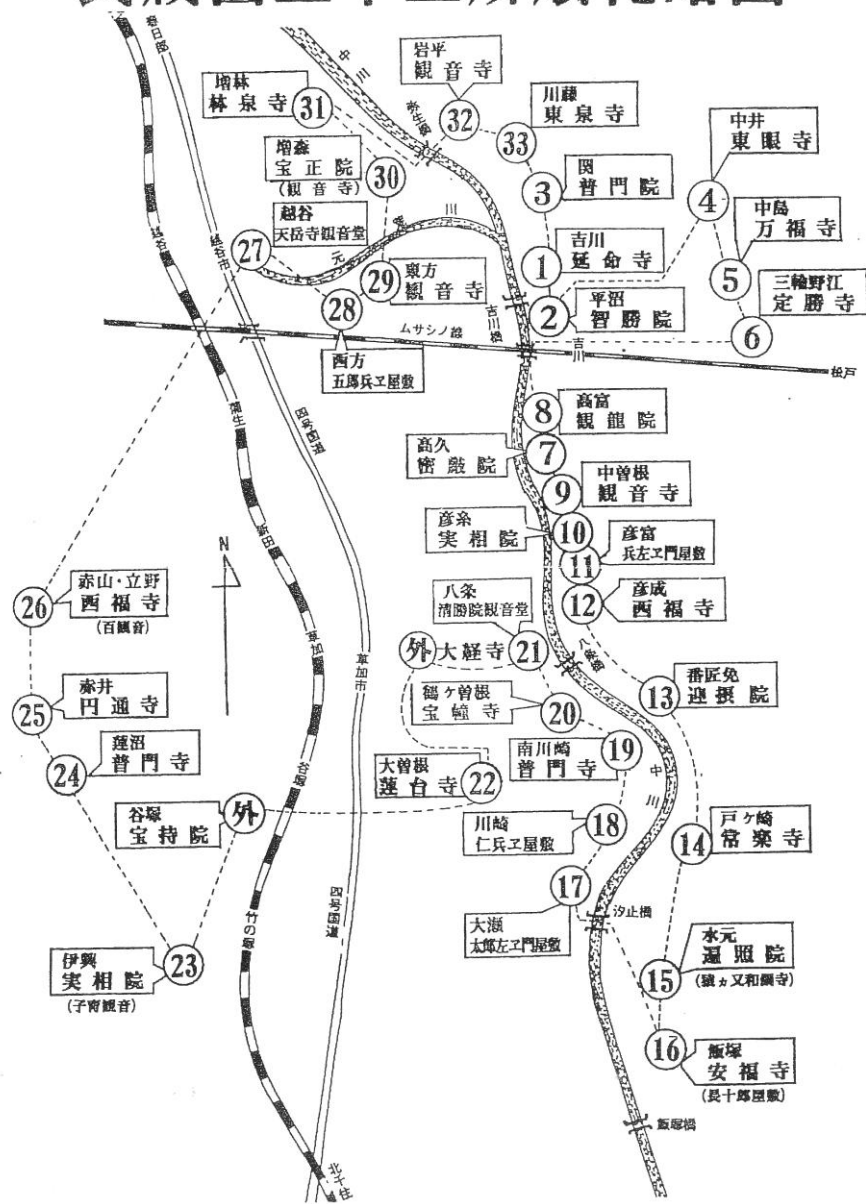
かかる巡礼

遍く照らす

離さで悪魔

漢字混じりで

—武蔵國三十三所順礼略図—



越谷市郷土研究会・高崎力氏の作成資料より